

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24617022

研究課題名(和文) 18世紀後半のゲッティンゲン大学で形成された初期文化人類学の言説研究

研究課題名(英文) A study on the discourse of early cultural anthropology made in Göttingen University in the second half of the 18th Century

研究代表者

森 貴史 (MORI, Takashi)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：10318743

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：オランダの解剖学者ペトルス・カンパーの顔面角理論、ドイツの解剖学者ザムエル・トーマス・ゼメリング、おなじく比較解剖学者ヨハン・フリードリヒ・ブルーメンバッハ、博物学者フォルスターなどの18世紀後期の人類学理論が古典主義美学の影響下にあり、その人類学理論と言説が同時代のスイスの文筆家ヨハン・カスパー・ラーヴァターの観相学、ウィーンの神経解剖学者フランツ・ヨーゼフ・ガルの骨相学、19世紀後半の犯罪人類学イタリア学派創設者チェーザレ・ロンブローゾの生来性犯罪者説、フランスの犯罪学者アルフォンス・ベルティヨンの人体測定法、ナチスドイツの反ユダヤ主義人種論まで理論的な影響を与えたことが確認された。

研究成果の概要(英文)：The facial angle theory of Dutch anatomist Petrus Camper and the early German anthropological theories of anatomist Samuel Thomas Sömmering, comparative anatomist Johann Friedrich Blumenbach, and natural historian Georg Forster were based on the classism advocated by artistic historian Johann Joachim Winckelmann in the second half of the 18th Century. Their discourses had an theoretical impact on the physiognomy of Swiss writer Johann Kasper Lavater, the phrenology of Wiener nerve anatomist Franz Josef Gall, the criminal atavism of Italian criminologist Cesare Lombroso, and the anthropometry of French police officer Alphonse Bertillon. These anatomic theories laid the foundation of the anti-Semitic racial theory of Nazi Germany, which made Jews the subjects of human experiments to prove the alledged inferiority of Jews.

研究分野：ヨーロッパ紀行文学

キーワード：18世紀ドイツ ゲッティンゲン 啓蒙主義 ブルーメンバッハ カンパー 顔面角理論 人類学 優生学

1. 研究開始当初の背景

(1) これまでジェームズ・クックの世界航海に同行し、その航海と知見を『世界周航記』として著した 18 世紀ドイツの博物学者フォルスターのテクストを、研究代表者は一貫して分析してきた。なかでも、啓蒙主義全盛の当時、「人間とはなにか」というテーゼは、ヨーロッパ全体の哲学的テーゼであったが、フォルスターもまた、南太平洋諸島の住民たちを観察し、18 世紀後半の人類学の発展に対して寄与している。ジャン＝ジャック・ルソーなどの同時代の見解では、サル、とくにオランウータンと黒人を同一起源とするのが多かったが、かれの人類学的視点では、オランウータンと黒人には多くの類似点がみられるものの、両者はあくまで別のものであって、黒人はサルとは異なり、人間であるとみている。

(2) しかし、18 世紀後半には、さまざまな人種論がほかにも誕生した。ドイツの解剖学者ザムエル・トーマス・ゼメリング (1755-1830) は、ゲッティンゲン大学で医学博士の学位を取得し、カッセル大学、マインツ大学医学部教授を歴任した。人類学者、古生物学者、発明家の肩書きもあり、黄斑という網膜にある黄色の中心部位を発見したことで知られている。しかし、その著『黒人とヨーロッパ人の身体的差異について』(1785) で、13 人の黒人の死体サンプルを解剖し比較分析した結果、「黒人はヨーロッパ人よりもサル類の境界近くに位置している」という結論を主張した。

ペトルス・カンパー (1722-89) は、ライデン大学で学位を取得した医学者、解剖学者で、フラネケル大学、アムステルダム大学、フローニンゲン大学の教授を歴任したが、本来は描画理論である顔面角理論を提唱した。この理論では、古代ギリシア人の顔面角は 100 度、ヨーロッパ人は 80 度、黒人とカルムイク人は 70 度、オランウータンは 58 度、サルは 42 度というように、序列化がみられるのであって、顔面角が前傾すればするほど美しく威厳があるとして、古代ギリシア人を最高美と位置づけるものである。

これらの人種論が後世にどのような影響をあたえていったかを、最終的には 20 世紀前半のナチスドイツの反ユダヤ主義的人種論にいたるまでを系譜的に検証した研究が必要であると考えられる。

2. 研究の目的

(1) ゼメリング、ヨハン・フリードリヒ・ブルーメンバッハ (1752-1840)、ペトルス・カンパー、ゲオルク・フォルスターといった 18 世紀の解剖学者や人類学者による初期文化人類学の言説を比較検討することによって、これらがいかに相互作用し、「差別的」人種論の萌芽をなしたかを分析

する。また、これらの人類学の言説がじつは、古典主義美学を根拠としていることと、18 世紀最高のアカデミズムの拠点ゲッティンゲン大学を中心にして形成されたことを証明するものである。

(2) 最終的には、白血病の発見者として知られる、ベルリン・フンボルト大学医学部教授ルドルフ・ヴィルヒョー (1821-1902) の頭蓋骨コレクション (現在も同大学に保管されている) とも関連づけることで、20 世紀まで継承されていた比較解剖学の系譜の終焉まで言及するのを目的としていたが、さらにナチス時代の人種論までとりあつかうこととなった。

3. 研究の方法

(1) 研究期間の初年度平成 24 年には、「研究目的」で提示したゼメリング、ブルーメンバッハ、カンパー、フォルスターに関する文献資料の収集と精読が中心であった。啓蒙主義時代の自然科学、とくに解剖学、博物学、人類学に関する文献は、これまでいくつかの論文等の作成を通じて、すでにある程度は収集してあったが、そのような資料についても、研究成果にさらなる奥行きをもたせるために、18 世紀の文献にあたって、もう一度あらためて収集する必要があった。また近年、デジタル化が進んだ結果、経費がデータの印刷と製本のみで使用されたために、消耗図書費が削減されることとなった。

(2) 次年度の平成 25 年度も、前年度の作業をひき続き進めながら、それぞれの文献の比較分析をおこなった。これまでに公表してきた研究成果にも再検討を加えながら、可能なかぎり最新の資料を盛り込むことで、内容および分量ともにボリュームアップできた。インターネットのウェブサイトを用いて、ドイツ語圏の大学ですでに電子化されている資料などの事前調査によって、効率よく資料収集できるように心がけたつもりである。必要に応じて、資料の整理や図版の電子データ化といった作業も平行しておこなった。

(3) 最終年度の平成 26 年度は、日独の研究者から得た最終調整のための助言をもとに、おもに研究成果の原稿執筆と出版のための校正作業に従事した。このドイツ訪問の機会に、最終年度に際して、分析および執筆の過程でどうしても新たに必要となったドイツ語文献の最後の収集もおこなった。本研究の成果は、浜本隆志 (編) 『欧米文明における集団妄想とカルト症候群』 (仮) に森貴史「カンパーの顔面角理論からナチスの人種論へ」という章として収録されて、平成 27 年度中に明石書店から出版される予定である (現在、校正中)。

4. 研究成果

(1) オランダの解剖学者ペトルス・カンパーの顔面角理論、ドイツの解剖学者ザムエル・トーマス・ゼメリング、おなじく比較解剖学者ヨハン・フリードリヒ・ブルームンバッハ、博物学者フォルスターなどの18世紀後期ドイツの人類学理論が、つねに体型と容貌の美醜をきわめて意識しており、それがじつは当時ドイツの考古学者で美術史家のヨハン・ヨアヒム・ヴィンケルマンによって提唱された古代ギリシア・ローマの美学、すなわち絵画や彫刻で描かれた理想の人間とみなす古典主義美学の影響下にあったことや、かれらの人類学理論と言説が、同時代のスイスの文筆家ヨハン・カスパー・ラーヴァターの観相学、ウィーンの神経解剖学者で生理学者のフランツ・ヨーゼフ・ガルの骨相学へと理論的に大きな影響を与えたことが確認された。

(2) ラーヴァターの観相学は、人間の顔を幾何学的にスキャンすることで、人間の個性を読み取るとうとするものであった。人間の内面が顔、とりわけ横顔の輪郭にあらわれているために、その横顔を構成する線(ライン)を類型化することで把握できるという方法である。

ガルの思想は、人間の個性に応じた頭脳の形状によって、頭蓋骨の形態が決定するというものである。換言すると、頭蓋骨の形状を精査し、その類型性を統合することでやはり、その人物の内面を特定できるという発想である。ガルは脳の機能が関係する頭蓋骨の各部位を27カ所に区分したのだが、それぞれの部位に意味と機能をもたせたのは、カンパーと同様である。頭蓋骨の各部数値を計測することで、その人間の性格を逆推論していく学説であった。

とりわけ、ガルが精査したのは、精神病患者と犯罪者の頭蓋骨である。公開処刑された殺人者の頭蓋骨には、発達がいちじるしい部分が4、5カ所存在することに着目し、その部分がいずれも右耳の後部にあって、その部分が「暴力沙汰を犯す性向」と「殺人を犯す性向」を示しているとした。ガルもまた、実証性を獲得するためのサンプル蒐集を怠ることはなかった。知的障害者から学者にいたるまでのさまざまな人間400人分の頭部を石膏で型どりさせている。

(3) さらにガルの骨相学は、19世紀後半の犯罪人類学イタリア学派創設者で指導者のチェーザレ・ロンブローゾの「生来性犯罪者説」へと継承される。近代犯罪学の祖ともいわれるロンブローゾもやはり、対象とする人間の観察、計測、記録という方法をとったが、そのさいには研究対象を2種のグループに分けて、特定の指標にもとづき計測したデータを数量的に比較するという実証的な方法である。かれが最初に比較

検討したのは、兵士と刑務所に服役する受刑者の身体である。そこから、頭の大きさや形状の異常、顔の左右非対称、顎と頬骨の異常な大きさ、眼の欠陥や特異性、耳の形状の異常など、18の身体的異常を、犯罪者特有の具体的な特徴として列挙している。すなわち、犯罪者の身体的特徴の類似性を帰納的に統合して、犯罪者をあらかじめ外見の生物学的特徴から特定しようとする理論であった。ちなみに、現在では当然ながら、この説は完全に否定されている。というのも、親子のあいだで遺伝するのは生理的・生物学的な特徴であって、犯罪行為そのものは遺伝で継承されないと考えられているからである。

ロンブローゾの方法論は、フランスの犯罪学者で人類学者のアルフォンス・ベルティヨンによる犯罪者の身体的特徴を特定しようとする人体測定法で理論的頂点をきわめた。ベルティヨンの人体測定法は、身長、頭骨の長さ(額から後頭部までの直線距離)と横幅、中指の長さ、足の大きさなどの人体の四肢を厳密に測定し、それをカードとして作成するものである。しかも、おなじ距離、おなじ強さ照明で撮影された写真2枚を添付するほどの厳密さを誇っていたのであり、ロンブローゾからベルティヨンへの思想的継続性が明らかになった。

だが、その同時期に犯罪者の識別に有効な鑑別法が登場している。すなわち、指紋鑑別法である。人体測定法の欠点は、女性や未成年者に応用が困難であり、測定の厳密さと煩雑さが問題視されていたのと比較すると、指紋の測定は簡便さではるかに優れていた。プエノス・アイレス管区警察の役人ファン・ブセビッチがそれまでの指紋鑑定法の改良に成功し、1896年にアルゼンチンで指紋による犯罪者識別法を世界で最初に採用した国となった。それ以降、1910年には、フランスを除くと、世界の警察が指紋鑑別法を採用した。その後、血液、精液、遺伝子による判別法が開発されていくことになった。

(4) これらの解剖学は、19世紀後期には、ユダヤ人を貶めるための人種理論へと変容していった。実証性を重んじるがゆえに、19世紀をつうじて、頭蓋骨は解剖学者たちに蒐集されつづけていた。たとえば、19世紀ドイツの細胞病理学者ルドルフ・ヴィルヒョーは、ベルリン医学会会長やベルリン大学総長を歴任し、ベルリンの公衆衛生や医療改革をおこなった人物である。その後半生において人類学に傾倒し、1869年にベルリン人類学・民族学・原史学会を設立した。ヴィルヒョーにとっての人類学は、人間の文明化の過程や、自然と文化のあいだの人間の対立を解明する学問であった。ヴィルヒョーの名声もあって、ヨーロッパ帝国主義時代におえる世界のすべての大陸が

ら頭蓋骨やほかの部位の人骨がベルリンの病理学研究所へと送られたのである。実証性の追求にはサンプル蒐集が不可欠であるのは、ヴィルヒョーのばあいもかわらない。このコレクションは時代の経過とともに所蔵数が増加し、大戦の戦災も生き延びた。近年では1万個を超えた頭蓋骨・骨格コレクションであったことが確認されており、現在はベルリンのシャリテーで保管されている。

(5) フランス革命以降、ヨーロッパ各地でユダヤ人の解放が宣言されると、ユダヤ人の人口は漸次、増大の一途をたどった。時代の変化によって、新たな反ユダヤ主義が台頭してきたのである。それ以前、ユダヤ人は白人として考えられてきたのであって、異教徒ではあっても、「異人種」ではなかった。にもかかわらず、ユダヤ人に適用できるような、かれらを劣等な「異人種」と規定できるような「人種」の理論が必要となってくるのである。

そのため、ドイツにおいては、ユダヤ人という「人種」を劣等化する概念としての「アーリア人」が台頭してきた。アーリア人という語を最初に使用したのは、18世紀フランスの東洋学者アンティクル・デュ・ペロンであって、かれがこの語をヘロドトスの著作から採用したというが、もともとはペルシア人やメディア人を指すことばでしかなかった。ところが、19世紀を経過する過程で、インド・ヨーロッパ祖語を話していたとされる太古の人びとをひとつの「人種」とみなし、それがゲルマン人の祖先であるという説が捏造されたのである。

くわえて、ユダヤ人の劣等性を遺伝的な原因とする言説が登場する。ほぼ19世紀のあいだ、ヨーロッパ人は黒人のことを類人猿に近い種族とみなし、じゅうぶんに文明化していないという理由で、アフリカ人を人間扱いしなかった。しかし、ユダヤ人に対しても、黒人と同様に、サルやオランウータンに近い「人種」であると考えられるようになったのである。19世紀半ばまでは、ユダヤ人は白人に分類されていたが、これ以降は、ユダヤ人が類人猿に似ているという考えが広がり、「退化」した「人種」とされるようになる。

(6) 現代からみると、ナチスドイツが強制収容所や医学機関でおこなった医学実験が荒唐無稽に思われるのは、ユダヤ人がドイツ人(アーリア人)よりも劣っていることを証明する優生学的な根拠を発見するためであったからである。人類学的差異を発見するために、ユダヤ人を解剖したのだ。アウシュヴィッツでは、骨格構造を精査する実験によって、ユダヤ人や多人種の劣等性を示す骨格的特徴をみいだそうとした。あるいは、血液の分析によって、アーリア

人と非アーリア人の差異化を血液の性質そのものでおこなうために、それぞれのリンパ液を比較した。実証されなければならないのは、ユダヤ人の劣等性と、アーリア人との明確な差異なのである。

1933年から45年までの時代はナチスドイツの反ユダヤ主義が頂点に達した時期であって、ナチスドイツの「人種法」はユダヤ人が「劣等人種」であることを証明するための理論であったと同時に、解剖学者や人類学者はそれを実証するための実験をくりかえしていた。もちろん、本章前半で言及した18世紀後半のペトルス・カンパーの顔面角理論やその周囲の解剖学者たちによる「人種」の分類思考にその起源を歴史的にもつといえようが、ナチスのニュルンベルク法とこれを成立させるための医学実験と比較すれば、おなじ実証主義という前提に立つものであったとしても、カンパーたちの思想がいかに牧歌的であったかということはあえていうまでもないであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

森 貴史、近代エジプト学の成立と所蔵品の帰趨―ベルリン・エジプト博物館をめぐって、The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture、査読無、Vol. 2、2015、163-178

森 貴史、00年代以降の虚構を紡ぐということ―小路啓之『犯罪王ボポネボ』原論、関西大学文学論集、査読無、第64巻第1号、2014、1-28

森 貴史、プトレマイオス1世によるトシアレクサンドリアの文化政策―図書館とセラピス神をめぐって、関西大学文化財保存修復拠点 Semawy Menu、査読無、Vol. 4、2013、117-129

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計4件)

浜本 隆志、『欧米文明における集団妄想とカルト症候群』(仮) 明石書店、2015 出版予定、校正中

森 貴史、ドイツ王侯コレクションの文化史―禁断の知とモノの世界、勉誠出版、2015、352

森 貴史 他、ドイツ奇人街道、関西大学出版部、2014、331

浜本隆志 他、現代ドイツを知る62章(第2版) 明石書店、2013、第3、7、21、23、

36、52 章担当

森 貴史 他、ビールを 読む ドイツ
の都市史と文化史のはざまで、法政大学出版
会、2012、267

〔その他〕
ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

森 貴史 (MORI, Takashi)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：10318743

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：